

米国で強い利上げ停止シグナルが点灯



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米債市場で利上げ停止シグナル点灯

FRB（米連邦準備制度理事会）は今年3月のFOMC（米連邦公開市場委員会）からインフレ抑制に向けて利上げを開始し、そのペースは足元で加速しており、今後も急ピッチな利上げは継続する見通しです。ただその一方で、急速な利上げによる米景気の失速を警戒して、米国債市場ではFRBに対して利上げ停止や利下げを催促するような動きがみられ始めてきたことは見逃せません。

米国債の各年限利回り差をみると、「30年-2年」、「10年-5年」、「10年-2年」の3つの利回り差が同時にマイナスとなっています（7月21日時点、7月22日には「30年-2年」はプラス転換）。過去を振り返ると、この3つの利回り差が同時にマイナスとなった後、FRBは利上げ停止と大幅な利下げに追い込まれており（右上図）、米国債市場の発するシグナルは、FRBの金融政策の転換点が近づきつつあることを示唆しているといえるかもしれません。

ポイント② 消費者の期待インフレ率低下は支え

米ミシガン大学が7月15日に発表した米消費者の7月の5-10年先期待インフレ率は2.8%上昇と、前月（3.1%上昇）から低下し、昨年7月以来の低水準となりました（右下図）。同指標はFRBが金融政策の判断において重視しているとされており、足元のガソリン価格の低下などにより、同インフレ率の低下傾向が今後も続くようであれば、FRBの金融政策に修正余地が生まれてくる可能性もあります。

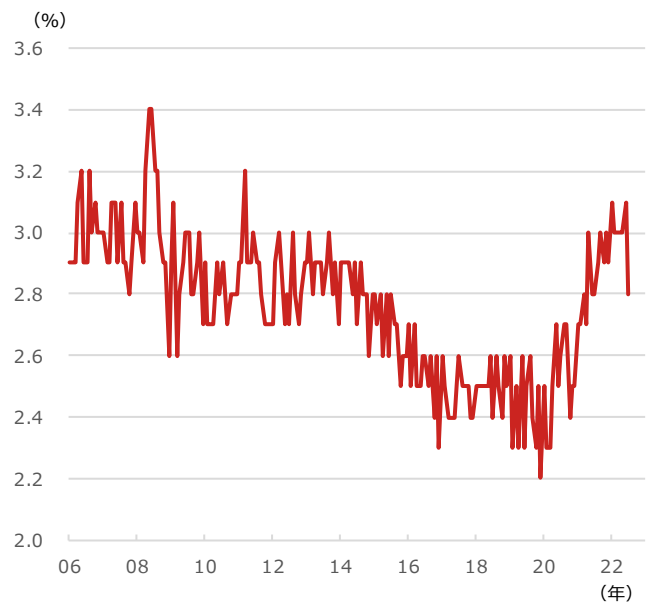
米国のインフレの先行きを巡っては、依然不透明な状況ではありますが、インフレ鎮静化を示す兆候も増え始めており、年末に向けてFRBの金融引き締めが転換点を迎えるかがグローバル市場を見る上での焦点となりそうです。

米国債各年限利回り差とFF金利誘導目標上限値



期間：1987年1月末～2022年7月21日、月次（FF金利は6月末まで）
 ・FF金利はフェデラル・ファンド金利
 ・丸印は3つの利回り差が同時にマイナスとなった局面
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ミシガン大学5-10年先の期待インフレ率



期間：2006年1月～2022年7月、月次
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。